

2022 町勢要覧 様似町



北海道の中央を南北に連なる日高山脈の南西に位置し、前面には雄大な太平洋が広がっています。



～夢を絆を 笑顔でつなぐ まちづくり～

様似町



豊かな自然がある。様似。

様似町は、日高山脈を背後に、前面には太平洋を臨み、その海岸線は変化に富んだ景勝地が点在しています。町の中央部に秀峰アポイ岳（約810m）、ピンネシリ（約958m）の連山がそびえ、日高山脈の支脈となり、「日高山脈襟裳国定公園」の一部を形成しています。とくにアポイ岳の高山植物は、数多くの固有植物が生育し国の特別天然記念物にも指定されています。

海岸線には、「親子岩」、「ソビラ岩」、「ロウソク岩」など、遠く昔に形成された火成岩が多く見られます。奇岩「親子岩」は今も昔も変わらない形で、太平洋にその姿を見ることができます。

北海道の中でも古い歴史を持ち、豊かな自然に恵まれた町で、「夢を絆を 笑顔でつなぐ まちづくり」を創生のテーマに、だれもが安心して暮らしていける町をめざしています。

カンランくん アポイちゃん



アポイ岳ジオパークキャラクター

正義感が強く、意思（石）は固いが、ちょっぴりおちょこちょいのカンランくんと、太陽のように明るく、誰にでも優しいしっかり者のアポイちゃん。アポイのかんらん岩と高山植物の妖精の2人は、アポイ岳ジオパークのマスコットキャラクターです。

概要	1
様似町の四季	3
歴史	5
ジオパーク	7
産業	9
教育	11
子育て支援	13
保健	15
総合計画	17

様似町の四季

春

4月に入るとアポイ岳を訪れる登山客の安全を願い、アポイ岳の山開き安全祈願祭が行われ、登山シーズンの始まりを迎えます。5月中旬ころには、多くの登山客が訪れ、アポイ岳ジオパークビジターセンター横の駐車場が満車になる日もあります。

毎年ゴールデンウィークの時期に、様似ダムではエゾヤマザクラが咲き人々の目を楽しませてくれます。また、雪が解け温くなるこの時期、農家が苗の植え付けなどで忙しく作業している姿を見ることができます。



夏

様似の夏は短いですが、湿気も少なく涼しい過ごしやすい夏です。7月は、昆布漁のピークシーズンに入り、海岸の昆布干場にはびっしりと昆布が干されます。また、夏秋採りイチゴ「すずあかね」の収穫が始まり、11月末頃まで続きます。

8月には様似の夏の一大イベント「アポイの火まつり」が行われます。アポイ太鼓、ダンス、歌謡ショーなど、多くの演目で、人々の目を楽しませます。また、夏休みシーズンのこの時期、親子岩ふれ愛ビーチやアポイ山麓ファミリーパークキャンプ場は人気のレジャースポットで、多くの観光客で賑わいます。



親子岩ふれ愛ビーチ。この時期は、テントが所狭しと並びます。



コンブ漁の季節。上質の日高昆布が採れます。

秋



幌満峡の紅葉が見ごろ。鮮やかな景色を楽しむことができます。天気が穏やかな日の幌満ダム湖の湖面と紅葉が見どころです。

秋に収穫された地場の野菜、魚介などを販売する地場産フェアが開催されます。秋サケのつかみ取りや野菜詰め放題など人気イベントがたくさんあり、会場を盛り上げます。



←↑→様似の紅葉スポット 幌満峡。

冬

マイナス10度以下の冷え込みとなることは珍しい様似町。降雪量も比較的少なく、冬を過ごしやすい気候です。気温の下がった日の海岸では、光できらきらと輝くジュエリーアイスが打ち上げられることもあり、私たちの目を楽しませてくれます。

アポイ登山は冬も楽しむことができ、お正月にはご来光を見ようと登山客がアポイ岳に集います。



海からもやまと出る「毛風」と親子岩。

↑凍った川の水が海に流れ出て、波で砂浜に打ち上がったものがジュエリーアイス

歴史

先人の英知と努力によって築かれた様似



等澗院

- 享和 2 年 (1802 年) 様似が蝦夷奉行の管下となる (この年を様似の開基とした)。
- 文化 3 年 (1806 年) 幕府がオコタヌシ (栄町) に蝦夷三官寺のひとつ等澗院を建立。
- 明治 13 年 (1880 年) 様似郡各村戸長役場を開設し、芹沢光憲が初代戸長となる。
- 明治 39 年 (1906 年) 2 級町村制施行、様似郡は 1 郡 1 村となり、小荒井澄が初代村長となる。
- 大正 14 年 (1925 年) 浦河からの送電線が完成し、278 戸に電灯が点く。
- 昭和 12 年 (1937 年) 日高本線が様似駅まで開通。
- 昭和 27 年 (1952 年) 4 月 1 日町制施行、様似村を様似町に改称。

*江戸時代後期に、蝦夷地に入り亡くなった住民を弔うために幕府が建てた官営寺で、ほかに伊達市の「善光寺」と厚岸町の「国泰寺」をいう。

北海道遺産に選定！ 蝦夷三官寺「等澗院」

江戸末期に幕府が建立した 3 つの寺院、様似の等澗院・有珠の善光寺・厚岸の国泰寺の蝦夷三官寺は、平成 30 年 11 月に北海道遺産に選定されました。

北海道遺産に選定される基準は、学術的な価値だけでなく、地域が保全・活用に取り組んでいることや、今後の取り組みに期待できるものなどが重視されます。



護摩堂

国の重要文化財

ひやくまんべんねんじゆばこ 百万遍念珠箱

百万遍念仏とは、僧や信者が集まり、念仏を数限りなく唱えること。そのとき使われた数珠や念仏の回数を数えるための器具がついた入れ物が百万遍念珠箱です。7 日のうちに念仏を唱え終ると、目的が成就するといわれています。



念仏を唱える際に使用した百万遍念珠箱

等澗院古文書

住職記 11 冊、什物帳 1 冊、過去帳 1 冊、書付 1 通などの等澗院古文書が、国の重要文化財に指定されています。住職記には、当時の最初の住職の選任 (初代住職は秀暁) から始まり、その後 11 代目住職にいたるまでについて記録されています。



北方警備のため開削された、様似山道

蝦夷地初の官営 (国営) 道路である様似山道。約 7.1km、道幅は 90cm ほどで、人が歩いただけでなく、馬や籠に乗っていたことも記録からわかっています。

平成 30 年に国の史跡に指定され歴史的価値が認められています。

18 世紀末、ロシアの南下などにより異国船が蝦夷地に多く来航するようになった。江戸幕府はこの脅威を意識し、「北方警備のためには断崖絶壁で悪天候時には通行できない様似～広尾間の海岸線に代わる陸路の整備が重要」と開削するに至った。



寛政 11 (1799) 年に江戸幕府によって開削された様似山道

様似の埋蔵文化財、冬島遺跡

様似町では令和 4 年現在、29 カ所が埋蔵文化財包蔵地 (遺跡) として登録されています。

町では、昭和 40 年代に初めて発掘調査を行った冬島遺跡 (冬島地区高台) において、平成 26 年から令和 2 年まで継続して調査を実施してきました。

これまで出土した遺物から、冬島遺跡は縄文時代晩期から続縄文文化期に形成されたものということがわかっており、約 2200 年前に冬島で人が生活していたことがわかっています。



↑出土した遺物 (撮影: 写真事務所クリーク佐藤雅彦)

→発掘作業時の様子



先住民族アイヌの歴史と文化

様似町では、先住民族であるアイヌ民族が古くより暮らし、豊かな文化を築いてきました。

町名の「サマニ」をはじめ、町内には、アイヌ語由来の地名が数多く残されており、アポイ岳や親子岩をはじめとする、山や奇岩にはそれぞれアイヌ民族に伝わる興味深い伝説が残されています。

また、国の重要無形民俗文化財およびユネスコの無形文化遺産に登録されているアイヌ古式舞踊や儀式、工芸、料理など、さまざまな伝統文化が伝承されています。



↑アイヌ民族の伝統家屋「チセ」

→観音山カムイチャシ記念碑



ジオパーク

ユネスコ世界ジオパーク認定。アポイ岳ジオパーク



「ジオ」は地球や大地を意味する言葉。ユネスコ世界ジオパークとは、科学的に重要な、あるいは景観として美しい地質や地形を持ち、その上に成り立つ自然、そしてそこに暮らす私たち人間の歴史や文化を、守り・学び・活かすという包括的な概念で管理する地域です。

様似町には、世界でも類を見ない新鮮で多彩なかんらん岩から成る山々や渓谷、特殊な土壌条件などによって育まれた固有な高山植物群落、そして、海岸の特殊な地形が天然の良港となり古くから交易の拠点として栄えてきた歴史と文化があります。

アポイ岳ジオパークは、これら様似町の貴重な大地の遺産、豊かな自然環境および由緒ある歴史文化を守り、丸ごと学び楽しむという活動理念に共感し、活動をともにする団体や企業などと地域に活動を広げながら推進します。2008年には「日本ジオパーク」に、2015年には「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されました。

地質

高山脈は2つの大陸プレートの衝突によってできました。その衝突の際、地殻の下にあるマントルの一部が突き上げられるように地上に現れたのが「幌満かんらん岩体」、つまりアポイ岳です。

海の中でアポイ岳の形成がはじまったのが約1,300万年前。アポイ岳周辺には、地球深部のマントルの情報をそのまま持っている新鮮なかんらん岩が広がっており、世界的に注目されています。

また、アポイ岳ジオパークには、プレート衝突の現場やマグマが冷えて固まった奇岩、はるか南の海から運ばれてきた岩石など、大地の変動を学び楽しむための多彩な要素があります。



←右がかんらん岩。かんらん岩が変質したものが左の蛇紋岩。変質する前の「新鮮な」かんらん岩がみられる場所は世界でも多くない。



植生

アポイ岳では、その特殊な土壌・気象・地理的環境によって、低標高ながら高山植生が成立しています。ここには、ヒダカソウなどのここにしかない花を含む多くの固有な植物が生育しており、アポイ岳の高山植物群落は国の特別天然記念物にも指定されています。また、高山植物だけでなく、固有種のカタツムリ「アポイマイマイ」のほか、日本ではここにしか生息しない蝶「ヒメチャマダラセセリ」や氷河期の遺存種「エゾナキウサギ」など、アポイ岳ジオパークには、自然環境を学ぶ楽しむための多様で貴重な生態系が残されています。

アポイ岳固有種の代表、ヒダカソウ



エゾナキウサギ



ヒメチャマダラセセリ

海岸線に点在する奇岩

奇岩はこうしてできた

様似の海岸に点在する大小の奇岩は、アポイ岳とともに風光明媚な景観を形づくっています。これらは約1,770万年前、地殻変動によってできた地層の割れ目に入り込んだマグマが冷やされてできた「ひん岩」と呼ばれる火成岩の一種です。これは北海道にはあまり見られない岩石で、この地方特有のものでした。

まわりのやわらかい地層は波や風で削り取られ、硬いひん岩だけが残り、今の形となったと考えられています。



様似の海のシンボル「親子岩」。親子のように大小3つの岩が海岸に並んでいます。



冬島地区にある「穴岩」。昔、いくさがあり、敵の長が放った矢が岩にあたって、大きな穴があいたというアイヌ民族の言い伝えがあります。



様似の西口ともいえる塩釜トンネルとローソク岩。奥にはアポイ岳が見えています。

ジオパークを楽しむ、ビジターセンター

アポイ岳ジオパークビジターセンターは、様似町の地形・地質、自然、歴史・文化・産業に関する展示や映像、解説を通して、アポイ岳ジオパークをより楽しむために必要な情報の提供を行う施設です。併せて、より楽しく、より安全にアポイ岳登山をしていただくために、高山植物やヒグマなどに関するリアルタイム情報の提供を行っています。



かんらん岩と高山植物の関係

かんらん岩でできた世界でも珍しい山、アポイ岳。かんらん岩でできた土壌は植物にとってはとても育ちにくい環境です。また、海に近い霧により夏でも涼しく、雪が少ないため冬の期間は吹きさらしになります。

標高810mしかないアポイ岳で高山植物が見られるのは、こうした高山に似た厳しい環境があるおかげなのです。

さらに、アポイ岳にはヒダカソウなどの「世界にここにしかない花」がたくさんあります。手軽に登ることができ、珍しい花が見られるアポイ岳は、多くの登山者の目を楽しませてくれます。



産業

様似を支える産業



様似町を支える産業は一次産業です。水産業では、昆布漁、秋サケ漁などが盛んに行われています。

農業では、日高地方の特色である軽種馬生産や水稻があるほか、近年では、夏秋採りイチゴ「すずあかね」の生産が行われており、生産量・生産高ともにここ数年上がり続け、新規就農者数も増えています。

林業では、森林資源を持続的に活用できるようにするため、間伐などの整備を計画的に実施しています。整備の中で出た木材を木質バイオマスチップに加工したり、製材加工したりして、無駄のないエネルギー利用に貢献できる取り組みや、付加価値をつけての製材販売を進めています。

このまちの基幹産業、水産業

様似では年間通してさまざまな漁業が行われており、春はホッキ貝漁 やウニ漁、夏はつぶ漁や昆布漁、秋はサケ漁やスルメイカ漁、冬はカニ漁やスケトウダラ漁が行われています。

昆布のとれる夏の時期、昆布干場では、昆布干しの陸周りの人たちが手際よく昆布を干していく様子が見られます。夏の訪れを感じられる日高管内ならではの光景です。



おかまわ



ふるさと納税の返礼品で人気のブランド鮭「銀聖」の山漬け



←秋サケ漁の様子



夏秋採りイチゴ「すずあかね」の生産

町では、ひだか東農協と連携して、「すずあかね」という夏秋採りイチゴの栽培に力を入れています。

この品種は酸味が強くケーキ用として使用され、浦河町とともに今や品種生産日本一の出荷量を誇っています（本町は年間 140 t ほど）。そのほとんどが東京方面に出荷されています。

10 年ほど前から、町が様似川中流域の田代地区に栽培用のビニールハウスを順次建設しながら、町外から新規就農者を呼び込んで、徐々に生産規模を増やしています。



町独自の補助制度

- 様似町地域振興作物等奨励事業
- 施設園芸ハウス設置費等助成事業
- 新規参入者就農促進対策事業

森林を整備、有効に活用

町では、森林計画に基づいて森林の整備・保全を進めており、資源の保続に配慮しながら間伐などを行って将来にわたって活用できる森林づくりをめざしています。

これまでは、切り捨ててきた未利用材を有効活用しようという取り組みを進めており、ひだか南森林組合では木質バイオマス発電用チップを生産し、主に王子グループのバイオマス発電所で活用されています。



この地で鉱工業が行われた理由は…

手塚信吉氏は、「日高の発展のためには水力発電が必要」と、幌満川に水力発電のためのダム建設を進めました（手塚氏は、のちの東邦電化㈱の社長）。

幌満川が選ばれた理由は、ダムに適した地形が自然にできあがっていたことにあります。やわらかい地質と硬い地質のその境界線のところがダムに適した土地の形となっており、この地がダム建設地となりました。

その硬い地質の正体が、かんらん岩。ダムの建設工事が進まなくなるほど硬く頑丈なかんらん岩は、のちに世に出て、工業資材や湾岸工事用石材として広く使われています。

幌満川で水力発電を行う新日本電工㈱。かんらん岩を掘削・加工する東邦オリビン㈱は、現在も様似町の産業を支えています。



不屈の実業家 手塚信吉



幌満川で作業にあたる作業員。硬い岩盤に阻まれ、作業は難航しました。

教育

郷土愛を育む、特色ある学校



様似町では、小学1年生から中学3年生までの9年間を見通した学習や発達段階に応じた指導を行う「小中一貫教育」を進めています。

郷土愛を育むために、「ふるさとアポイ学」で様似町の自然・歴史・産業などについて学び、ふるさとについての知識を積み重ねています。

また、コミュニティ・スクールを取り入れ、地域全体で子どもたちを育てていく取り組みをしています。



「ふるさとアポイ学」で、このまちを学ぶ

小中一貫教育の実践のひとつである「ふるさとアポイ学」。小学3年から中学3年生までの7年間で、自分たちの住む様似町の自然・歴史・産業などについて学びます。



中学校でのアポイ岳に関する学習では、「アポイドリームプロジェクト」という取り組みをしています。生徒がアポイ岳の高山植物再生のため、さまざまな実験・検証をしながら苗を育て、成長の様子などを自分たちで観察し、春に移植します。

様似町の歴史についての学習では、観音山・親子岩・エンルム岬などの様似の名所や郷土館を見学し、町の歴史を学びます。また、産業について学ぶため町内企業を訪問、インタビュー学習を通じて自分たちの住む町についての理解を深めます。

「ふるさとアポイ学」の集大成として、中学校では年1回「全校総合発表会」を行います。グループで決めた研究テーマについて、調べ、考えをまとめた後、どう表現すれば多くの人に伝わるのかを工夫しながらポスターを作成します。みんなの前で説明をするポスターセッションに取り組むことにより、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育てます。



中学校全学年で行われるポスターセッション発表会

コミュニティ・スクールで、よりよい学校づくり

様似町では、学校・保護者・地域のかたなどさまざまな立場から意見を出し合い、学校運営を進めるコミュニティ・スクールを取り入れています。

年4回ほど行われる学校運営協議会は、幼・小・中の全校でひとつの協議会を設置しています。保護者や地域の代表者に加え、現役高校生も委員として出席し、高校生ならではの視点で議論を盛り上げています。

コミュニティ・スクール

学校と地域住民などが、力を合わせ学校運営に取り組む「地域とともにある学校」への転換を図るための仕組みです。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となり特色ある学校づくりを進めていきます。

地域とともにある学校づくり

- あいさつ週間・見守り活動
- 学校支援ボランティア など



地域の声を聞く、町民熟議



毎年、町民の声を学校づくりに活かすための「町民熟議」が行われています。様似の子どもたちにどのように育ててほしいか、そのためには町民はどのような活動を進めていけばいいかを議論します。

様似型スクールランチ



町で給食センターを持つことが難しい中、子どもたちに温かい食事を提供するため、「様似型スクールランチ」として、生活協同組合コープさっぽろと事業協定を締結し、配食サービスの仕組みを利用して実施しています。

食を中心に、誰もが健康で安心して暮らし続けることのできるまちづくりを推進することを目的として、一部地元の食材を取り入れてもらいながら、温かい食事を提供するとともに、家庭での弁当調理の負担軽減をめざしています。

町立様似図書館

町立様似図書館は、平成4年に管内唯一の独立館として、町の中心部に開館しました。町内の情報の拠点となるべく、また、町民のかたが本を手に取りやすい環境づくりをめざして、さまざまな事業を実施しています。



ブックスタート事業

赤ちゃんと保護者に、乳幼児健診時に、絵本2冊とオススメ絵本リスト、絵本との付き合い方ガイドブック、バックをセットにしてプレゼントしています。



ブックフェスティバル

様似小学校の体育館で行われ、子どもたちは体育館に広げた約1,500冊の本の中から自分が読みたい本を探します。

出張貸出

図書館から離れている地区のかたでも本が借りやすいように、毎月1回、西町生活館と幌満コミュニティセンターで図書の出張貸し出しを実施しています。



子育て支援

多様なライフスタイルに合わせた支援の実現



幼児センター園庭遊び

様似町では、安心して子育てができる環境を作るために、乳幼児健診の充実、18歳以下の子どもの医療費無料、放課後等の居場所づくり、母子保健・保育・教育の連携による切れ目のない支援などの取り組みを行っています。

「子どもの育つ力をのばす環境づくり」、「多様なライフスタイルの中で、子どもを産み育てる環境を支える地域づくり」、の実現をめざし各種事業を行っています。



認定こども園様似町立幼児センター

子育て支援事業

子育てサロン

妊婦さんから就学前の子を対象に、幼児センター内で子どもと一緒に遊んだり、子どもの遊ぶ姿を見守りながら、親同士が交流し育児の情報交換したりできる場です。季節に合わせた行事（遠足、クリスマス会、餅つき会など）や制作（こいのぼり、クリスマスツリー、ひな人形作り）など、親子で体験できる活動もしています。また、子育てに関する悩みなどの相談も受け付けています。



放課後児童施設「ひまわり」

仕事などにより、保護者が家で子どもを見られない家庭の小学1年生～3年生までの児童を対象に、「放課後児童クラブ」を、小学4年生～6年生を対象に「放課後子ども教室」を、小学校に併設された放課後児童施設ひまわりにて実施しています。

児童クラブでは、季節に合わせた行事の他、異年齢間の関わりを学んだり、子どもたちの学習指導を行ったりなどのサポートも行っています。



認定こども園様似町立幼児センター

ユネスコ世界ジオパークの町ならではの、

ダイナミックな遊び

戸外遊びは幼児センターの日課の中で、とても大切にしている活動です。様似町はユネスコ世界ジオパークに認定された町であり、学芸員と協力した実践の中で、子どもたちの身近な自然環境への興味や関心を高める活動をしたり、五感をフル活用してできる遊びの工夫を行ったりしています。



発達に即した運動遊びの実践

幼児センターでは、日常の教育保育の中で各年齢の子どもの育ちや発達に応じた運動遊びの実践を行っています。4、5歳児の実践では運動遊び事業「みらい塾」を計画的に実施し、ボール遊び、マット運動、鉄棒などの運動遊びに親しめる活動を行っています。



音やリズムを楽しむ時間

幼児センターでは専門の講師による4、5歳児対象のリトミック教室を年間24回実施しています。

リトミックは、楽しく音楽と触れ合いながら、基本的な音楽能力を伸ばすとともに、これから受けるあらゆる教育を十分に吸収して育つために、子どもたちが個々に持っている「潜在的な基礎能力」の発達を促す教育です。



絵本の読み聞かせ

親（保育者）と子どもが寄り添って絵本を一緒に読むことは、「お話を一緒に読んでもらったという喜び」と「楽しかったお話の記憶」という2つの宝物としてお互いの心に残ります。子ども時代は脳の働きや感性が養われる一番大切な時代といわれていますので、豊かな言葉と絵が織りなす物語を十分に楽しませてあげたいものです。



認定こども園様似町立幼児センター

〒058-0015 北海道様似郡様似町錦町1-1

TEL 0146-36-3521 FAX 0146-36-2203 MAIL: samani.youji@blue.ocn.ne.jp



詳細についてはHPをご覧ください▶

保健

いつまでも健康に生活できるまちをめざして



エンルム農園収穫

様似町では、乳幼児健診やむし歯予防教室、18歳以下のかたを対象とした医療費無料制度など子どもたちの健康のための取り組みを行うほか、成人・高齢者保健対策として各種がん検診や20歳から40歳未満の若年者健診、後期高齢者医療制度の健診などを行っています。

子どもから、働き盛り世代、高齢者まで、どの世代も健康で暮らしていけるまちをめざして各種保健事業を進めています。

保健福祉センター・きらく

少子高齢化社会を迎え、保健福祉、老人保健福祉サービスを保健福祉センター・きらくを拠点に総合的に展開しています。この施設は、町民が心の豊かさを実感できるように保健事業の推進体制を整え、デイサービスや訓練、診察、リハビリを目的に整備されています。

高齢者福祉対策や介護予防、健康相談のほか、妊娠・子育て期のかたがたのための母子保健事業などを行っています。

町独自の保健事業

- 周産期医療通院費補助事業
- 医療技術者及び保健師等修学就業資金貸付事業



健康に生活するために、各種健（検）診・予防接種



様似町では、生活習慣病の予防・重症化を防ぐために、各世代のニーズに応じた健（検）診や健康相談、予防接種などを実施しています。

ワンコイン（500円）で受診できる若年者健診やメタボリックシンドロームに焦点を当てた特定健診、後期高齢者健診のほか、各種がん検診なども行っています。

健康寿命を伸ばしていつまでも元気に

人生100年時代

人生100年とも言われるほど長生きする人が多い時代、いくつになっても健康で楽しく暮らすために、さまざまな介護予防の活動が行われています。

どんなにエネルギッシュな人でも、必ず「寄る年波」はやってきます。しかし、日頃の過ごしかたによって衰えの速度を抑え、長く元気に過ごすことができます。高齢化が進む中でも、地域の人たちで互いに見守るためにボランティア活動などが積極的に行われています。



「ふまねっと」をサポートする介護予防ボランティアのみなさん



いきいき百歳体操&ふまねっと

いきいき百歳体操&ふまねっとは、保健福祉センターや町内各地で、介護予防サポーターのかたが中心となり行われる介護予防運動です。

いきいき百歳体操は、各自の筋力に合わせて重りを付け、ゆっくりと動かし、日常生活に必要な筋肉を鍛えます。ふまねっとは、格子状の網を踏まないようにゆっくり歩く、頭とからだの運動です。手拍子を加えたり、音楽に合わせてステップを踏んだりもします。

また、この集まりは介護予防だけではなく、仲間同士の集いの場、交流の場としての側面もあります。



おたっしや教室

おたっしや教室は月に1回程度、健康な体づくりと認知症予防、家にこもらないためのコミュニティの場として開かれています。毎回行う筋力のトレーニングのほか、年に1回講師のかたに来ていただき運動をしています。健康づくりとコミュニケーションの場として開かれるおたっしや教室には笑顔があります。

子育て世代のために

保健福祉センター・きらくでは、安心して出産や子育てができる環境をめざして、各種母子保健事業を行っています。妊娠期から切れ目のないサポートを実現する第一歩として、妊娠届受け付け時に母子健康手帳を発行し、保健師と妊婦さんの面談を行います。その他に、マタニティ・サークルや離乳食講習会などの健康教育、妊婦健康診査助成の実施。各種予防接種や健診などの母子保健事業のお知らせもしています。

18歳以下医療費無料制度

病気やケガをしたときに家庭の負担を軽減することを目的に、18歳以下のかたの医療費等の助成を行っています（保険外診療については対象になりません）。この制度は、所得制限はなく、様似町に住民登録をしていて、医療保険に加入している18歳以下のかたすべてが対象になります。



未来のために

様似町 総合計画

国も地方自治体も依然として先行き不透明な時代のなかですが、本町が持続的に発展していくためには、人口減少対策をはじめ、社会情勢の変化を的確に捉え、将来を見据えた行政運営を行っていかねばなりません。

令和3年度を初年度とし、計画期間を10年間とする第9次様似町総合計画では、「**夢を絆を 笑顔でつなぐ まちづくり**」を創生のテーマとして掲げ、健全な財政運営に取り組みつつ、小さいながらもお互いが助け合い、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らしていけるよう、各種の施策を推進していきます。

基本目標

1

推進体制の確立のために

人口減少下においても幸せに暮らし続けることができるよう、広域的な視野に立った取組を活かした持続可能な行財政運営を図り、町民と行政が力を合わせてともに知恵を出し合い、盛り上げていく『一人ひとりが主役なまち』を実現できるような体制づくりをめざします。

持続可能な行財政システムの確立

ジオパークによるまちづくりの推進

町民と行政による協働のまちづくり

基本目標

2

住みよい環境をつくるために

町民が誇りにしている様似町の豊かな自然と美しい自然景観を次代につなぎ、誰もが快適な暮らしを送れるよう、生活環境の向上に取り組み、『みんなが支え合い、思いやりのあるクリーンなまち』づくりをめざします。

まちなみの整備

自然の保全

上下水道の整備

衛生対策の推進

基本目標

3

安全な生活をおくるために

安全で安心した暮らしができるように、防犯や防火、そして防災に対する意識を高め、命を大切にするとともに手を取り、連携し合い『自助・共助・公助を高め合えるまち』づくりをめざします。

防災体制の整備

交通安全と防犯対策の推進

消防・救急体制の整備

国土保全対策の推進

基本目標

4

健康で幸せな生活をおくるために

人に優しく互いに助け合う気持ちで、見守りを必要としている人に支援の輪を広げます。保健・医療・福祉が連携し、相互扶助の精神で不安や悩みを解消し、いつまでも安心して健やかに暮らせるよう、『自立しながら助け合えるまち』づくりをめざします。

健康づくりの推進

地域医療体制の維持

地域福祉の推進

子育て支援の推進

基本目標

5

心豊かな人間性を養うために

生涯にわたって学んだり、スポーツをしたり、子どもからお年寄りまで、誰もがいつでも楽しめるために、ソウゾウ（想像・創造）力を育み『人と地域がつながりあうまち』をめざします。

幼児教育・保育の推進

義務教育の推進

社会教育の推進

文化活動の推進

スポーツの推進

基本目標

6

豊かな暮らしを生み出すために

海の恵み、大地の恵みをはじめ、地域の産業、個性的な観光スポット、住民のマンパワーなど、様似町にある多彩で魅力的な資源を、産業の活力にかえていき、地域の特性を活かした『孫の代まで資源をつなぐまち』づくりをめざします。

農業振興対策の推進

水産業振興対策の推進

工業振興対策の推進

林業振興対策の推進

商業振興対策の推進

観光振興対策の推進

基本目標

7

発展の基盤づくりのために

住民の暮らしに欠かせない生活基盤や情報通信基盤などの整備を進め、利便性の維持、向上を図り、多様な形で関わる「関係人口」を新たな視点で創出し、『みんながつながり、快適な暮らしができるまち』づくりをめざします。

道路環境・地域公共交通の充実

地域情報化の推進

土地利用の推進

公共施設の有効活用の推進

移住・交流の推進

町民がしあわせと感じられる町づくり



様似町長
荒木 輝 明

様似町は今年度（2022年）、開基220年・町制施行70周年を迎えました。このような記念の年に、本町勢要覧を発行することができ大変うれしく思います。

様似町は北海道の太平洋沿岸に位置し、アポイ岳を代表とする豊かな自然に囲まれ、一年を通じて穏やかな気候に恵まれた町です。2015年には、アポイのかんらん岩や高山植物などの貴重な自然が評価され、「アポイ岳ジオパーク」としてユネスコ世界ジオパークに認定されました。

近年、過疎化や高齢化、さらにはコロナ禍により経済活動へ大きな影響が生じておりますが、私がめざす「町民がしあわせと感じられる町づくり」の実現に向けさらなる取り組みを進めてまいります。



様似町章制定の由来

1. 制定年月日 大正7年4月
2. 由 緒

太平洋に突き出た様似発祥の地エンルム岬、この岬を中心にして、東に大港、西に小港を抱く姿をかたどり、さらには、本町の産業も漁業と農林業の二面からなり、共に相抱く平和の姿を表現したものです。

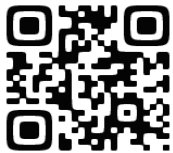
様似町民憲章

わたくしたちは、アポイをあおぎ、くろ潮にきたえ育った様似町の町民です。

わたくしたちは、祖先の意志をうけついで強くはばたく、住みよい町をつくります。

- 一. 仕事にはげみ、豊かな町にしましょう。
- 一. 緑を育て、きれいな町にしましょう。
- 一. きまりを守り、住みよい町にしましょう。
- 一. 夢があふれる、あかるい町にしましょう。
- 一. 世界をつなぐ、文化の町にしましょう。

ホームページ



Facebook



Youtube



様似町 町勢要覧

2023年3月発行
様似町役場企画調整課広報広聴係
〒058-8501
北海道様似郡様似町大通1丁目21番地
TEL.0146-36-2122 FAX.0146-36-2662



町の花
ヒダカソウ



町の木
ヒダカゴヨウ
(キタゴヨウマツ)